

「乳児保育」の授業研究 I

——予習重視のグループ討議と講義内容——

古橋 紗人子, 安井 恵子

Lesson Study on the Day Care for Infants. I

——Group Debate and the Contents of a Lecture Focused on Preparation——

Satoko Furuhashi and Keiko Yasui

1. はじめに

現代の学生は、少子社会に生まれ^{注1)}育ったことから、幼児教育保育学科の学生であっても、赤ちゃん体験はない者もいる。「赤ちゃん体験」の実態と意識調査の結果、図1、2に示すように電車やバスの中で「赤ちゃんが近くにきても気にしない」学生がいた。一方、「赤ちゃんは、かわいい」「赤ちゃんの笑顔に癒やされる。」だから「乳児保育がしたい！」と、自己中心的な安直な動機の者もいることに危惧する。保育者の言動は、子どもに大きな影響を与えることから人間性と専門性の向上が求められる。また、知性と技術を備え、豊かな感性と愛情を持って「子どもの最善の利益」^{注2)}を考慮し、子どもに関わるものである。学生のこれまで育ってきた家庭環境については、図3のようであり核家族化の進行による子ども体験の乏しさは、学生自らの気づきから考える習慣を身に付けるものでなければ成果は期待できないであろう。

但し、ここでは授業研究の焦点を予習重視のグループ討議を中心とする。なお、本研究は演習科目のテキストを検討することからのスタートであった。学生自らが主体的に演じるには、不思議に思ったり、もっと学びたいと思える環境(テキスト)の提示、換言すれば編著者(1)のプロットの組み立て方の影響も大きいと考えることから授業改善への過程としてふれる。

注1. 少子化の進行は、1989(平成元)年の1.57ショック以降、深刻な少子化社会に与える影響を懸念して、1994(平成6)年、最初の保育施策として「エンゼルプラン」を施行。本研究対象Ⅱ回生は、概ね1992~1993(平成4~5)年生れ。

注2. 平成20年3月厚生労働省より告知された「保育所保育指針」第1章 総則—2 保育所の役割—(1) 前略~入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。

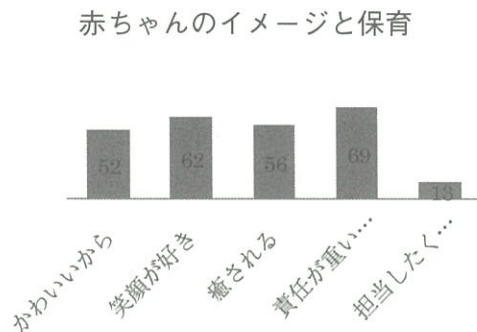
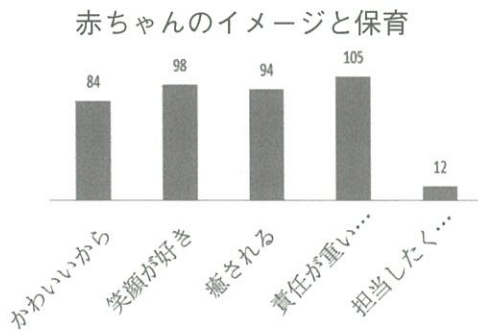
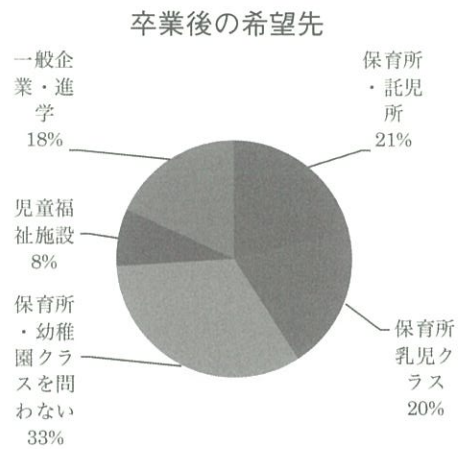
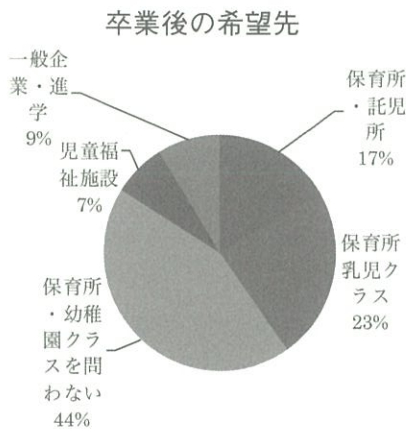
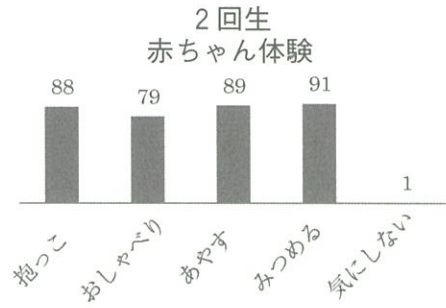
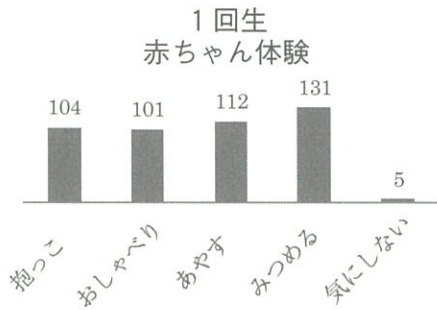


図1. 「赤ちゃん体験」1回生

図2. 「赤ちゃん体験」2回生

2. 目的と方法

本研究の目的は、2010（平成22）年度より「乳児保育」のテキスト¹⁾を新たに導入したことにより、予習重視の少人数でのグループ討議を中心とした授業を進めることにより、演習授業の価

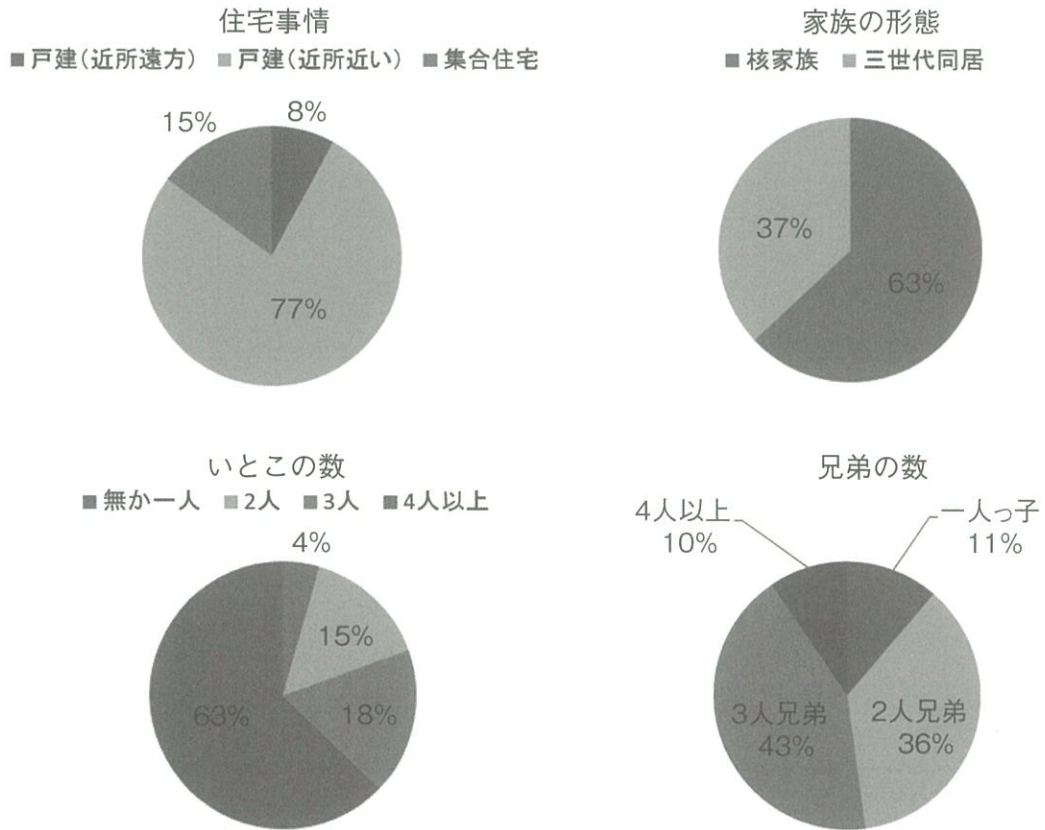


図3. 学生の子育て環境

値と問題点を明確にし、改善策を探り効果的な授業のあり方を追求するものである。

方法は、「授業計画」の原案を安井が作成し、3人の教員で検討後、共通のものを使う。学生には授業の2週間前に「予習 & 学習用紙」「グループ名簿と学習の仕方」を配布し、予習範囲を知らせる。授業1週間前に「予習 & 学習用紙」を回収して予習した内容を確認する。授業前に「予習 & 学習用紙」を返却。授業終了後提出の「予習 & 学習用紙」に教員は目を通し、理解の程度を3名が把握、情報交換する。

学生の意識調査(図4)を基に、PDCAサイクルの流れから指導方法の検討、授業改善を繰り返す。

3. 学生の意識調査

テキストの第1～7章(第6章は省く)について、難易等に関する意識(印象)調査をした。調査方法は、本学の幼児教育保育学科Ⅱ回生「乳児保育Ⅰ」履修生132名中、当日出席者119名対

「乳児保育」の授業研究 I

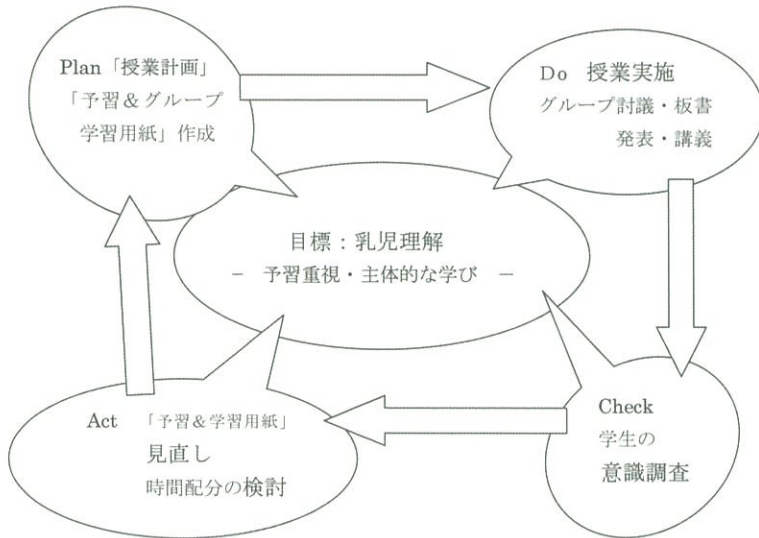


図 4. PDCA サイクル

表 1. グループ討議，中心授業における意識調査

章	テーマ (授業内容)	難しい	為になる	楽しい	印象薄い
1	赤ちゃんからのシグナル (脳科学の視点)	45 (7)	58 (7)	11 (2)	0
2	母子関係はいつごろから? (愛着の形成)	21 (8)	60 (15)	22 (5)	1
3	乳児保育のなかったころ (乳児保育の歴史)	42 (4)	50 (8)	18 (1)	4
4	乳児保育の対象年齢は (乳児保育の意義)	24 (3)	71 (9)	20 (1)	0 (1)
5	命を預かるってどういうこと (健康と安全)	28 (10)	57 (18)	10 (3)	2
7	赤ちゃんにも教育は? (養護と教育の一体化)	35 (6)	56 (10)	14 (3)	4 (1)
	ケーススタディ (事例からの考察)	20 (4)	46 (13)	25 (4)	5
計		215 (42)	398 (80)	120 (19)	16 (2)

() は、特に印象強い授業と意識したもの

表 2. 作成した課題における意識調査

No.	作成した課題	難しい	為になる	楽しい	印象薄い
1	愛着形成に関する保護者向けリーフレット	22 (7)	55 (6)	33 (1)	4
2	チャイルドマウス (誤飲防止)	8	49 (5)	19 (1)	19
3	封筒人形	7 (2)	32 (6)	66 (14)	1 (1)
計		37 (9)	136 (17)	118(16)	14 (1)

() 特に印象強い授業と意識

象に質問紙を授業中に配布, 回収率100%。複数回答可の結果を表1に示す。表2は, 同時に調査した制作課題についての結果である。

なお, 本調査の目的を授業改善のためと学生に伝え, 自由に提案する記述欄を設けたところ, 主に次のような記述があった。①予習内容の要約・考察等の記入欄が狭い。②授業後の考察・感想欄は少ない方がよく, 授業終了時に間に合わせたい。③章によってページ数が違い, 時間のかけ方に差があるので, 多い章は簡潔に説明して記述時間への配慮が欲しい。④用紙を何度も提出し回収するので時間がかかりルールに追われる。⑤堅苦しい授業と感じたこともある。

1) 意識調査の結果・分析

調査の結果は, 表1から次の事柄を読み取ることができる。『難しい授業』と意識の高かった項目は, 「脳科学の視点から」であり「乳児保育の歴史」が続いている。この2つが突出しており他の項目の2倍程の数字になっている。反面「ケーススタディ」「愛着の形成」と「乳児保育の意義」は少ない。一方, 各項目ともに『ためになる授業』と感じており, 『難しい』の数字をいずれも上まわっている。また, 『楽しい授業』は, 「ケーススタディ」「愛着の形成」と「乳児保育の意義」が多い。『印象薄い』は, 各章とも極端に少なく, 0～5名である。その中で「ケーススタディ」の5名が1番多い。この5名は, 表1からは読み取れないが, 古橋担当クラスに集中していた。ケーススタディは, 本来, 各章の動機づけとして組み込まれている内容であるが, これを5つまとめて授業した結果の数値と推察する。

表2は, 制作課題である。No.1は, テキスト第2章, No.2は, テキスト第5章のイラストをそれぞれ参考にして作成する「保護者向けリーフレット」である。No.3は補助テキスト^{2,注3)}を参考に作成して演じる課題である。「保護者向けリーフレット」は, 『難しい』が『ためになる』内容と捉えて『楽しい』と感じた学生も多い。「チャイルドマウス」は『印象薄い』が多く未記入も多い。また, 印象薄い19名については, 表1のケーススタディに見られた教員の取り組みの差に似た現象によるものと推察する。「封筒人形」は, 簡単にできることがポイントであり, 使用済みの封筒を使って簡単に作れるリサイクル人形の作成であったことから, 突出して『楽しい』課題と捉えられている。なお, 数字の後のカッコ内の数字は, 特に印象強いことを示すものである。

課題を出した時期は, 保育実習前であったが, 学生の意識は, 難易度が低く簡単できて楽しい授業と意識しているが, 『ためになる授業』と意識している学生は極めて少ない。

2) 考 察

①表1-1章「脳科学の視点」

学生自ら演じるには, 自分で考える習慣づけが必要であり, それには不思議に思ったり興味を

注3. 本研究対象学生の家庭環境に関する調査結果は, 核家族約62%, 3世帯同居約36%。3世代同居の約半数は敷地内別棟に住み, 実質的核家族とと思っている学生2名を含む。

持って学ぶことがスタートと考える。本テキストでは、第1章がその役割のトップバッターである。つまり、目覚ましく発展する医学、科学と赤ちゃんの育て方についての最新情報と、保育の新しい考え方の実際を学ぶ「ねらい」から、「脳科学の視点」が最初の章に取り上げられているのである。学生は、期待通り未知の世界の不思議さに興味を示し、予習に取り掛かったであろうが、意識調査では「難しい」が7項目中のトップであり、「ためになる」は3番目。「楽しい」は最下位から2番目であった。

おもしろそうと思ったが難しい。しかし、必要な勉強であり、「ためになる」と、感じていることがわかる。このことから学生は、難しい内容であっても、学ぶ意義を理解すれば、真剣に取り組むのである。ここに教師は、難しい内容の授業にも根気よく教授する価値を見出すことができる。と考える。

②表2-No.3「封筒人形」

「封筒人形」は、簡単に作って演じることができることから、「保育実習」前の課題としては、適した（ためになる）内容と教員には思えたが、学生の意識調査からは、抜群に「楽しい」が、「ためになる」と難易度ともに最下位である。つまり、「簡単にできて楽しい」内容については、授業として取り上げる価値は低く、参考資料の紹介にとどめてよいのか疑問である。ただ、「保育実習」の後、「封筒人形」を作ったり持参して遊んだという報告を複数受けたことや、保育現場の楽しさを具体的に実感する授業としては手近に取り組める課題と考える。

③自由記述

①～④は、PDCA サイクルとして後に述べることとする。⑤堅苦しい授業と感じることもある。については、図4に示したように、「予習&学習用紙」は、授業の2週間前から学生と教師の間を2往復し、記述部分が分かれていることから細かく「堅苦しい」印象を与えたのであろう。また、表1, 2からは読み取れないが、「堅苦しい」とは、授業を計画通りに進めようとしたり、一貫性のある授業をめざす意識が強すぎても堅苦しいと思わせる可能性はあるであろう。

しかし、職歴、職名など違う3名の教師^{注4)}であるが、共通点としては保育所の勤務経験が長く、「乳児保育」について専門性が高いことが特長である。それぞれの教師が本領発揮して、より効果的な実学教育を目指すことが重要と考える。

4. PDCA サイクルの流れ 2010（平成22）年 前期

Plan：授業計画

担当教員3名が同一「授業計画」を使う。できるだけ指導内容に一貫性のある授業への配慮であるが、あくまでも目安と位置付ける。テキスト以外の指導内容には特に留意する。例えば、第

注4. 20年以上非常勤講師経験のベテラン教員、非常勤特任准教授、専任教授

1回目の授業では、本学の建学の精神「心技一如」と、子育て支援活動「すみれがーでん」の説明をするが、どのように話すか具体的に明記する。

Do：授業実践

予習は、前々週に配布された「グループ名簿と学習の仕方」に提示された内容を「予習＆グループ学習用紙」に予習した内容の要約と考察したことを記録する。質問のある学生は、質問欄に記入。この用紙は、前半分を記入した状態で、1週間前の授業前提出。教師は、記述内容を確認。特に質問事項に対してチェックを入れる。

学生は、授業当日、授業開始前に返却された「予習＆グループ学習用紙」を見ながら授業に臨む。20分程のグループ討議（時にグループに入り質問や板書のモデルを示す）は、司会担当の学生のリードにより進め、板書担当者が板書する（学生が板書中に発表者へ発表のポイントを助言。板書の内容によっては、色チョークを使って、アンダーライン、○や？をつけていく）。全グループが板書したところで、グループの発表者が発表。発表内容以外にも、将来の保育者としての視点にたった指導もする（立つ位置、姿勢、マイクの持ち方、話し方等々）。教員からは、黒板に補足を含む講義を行う。授業後はグループ討議の内容と、他のグループの発表及び講義内容についても記録して授業終了時に提出する。用紙は教師が確認の後、検印して保管し適当な時期に返却する。

Check：評価・省察（学生の意識調査）

「予習＆グループ学習用紙」のチェック。学生の意識調査をもとに3教員による省察。

「予習＆グループ学習用紙」はその都度評価し、次回授業への検討材料として保存。

Act：改善

- 「予習＆グループ学習用紙」の改善。時間配分の再考。教員連携の強化。
- 「予習＆グループ学習用紙」の改善は、後期授業より、新形式の用紙を使用する。
- 教師連携の強化については、非常勤講師は後期の導入はなく、2名の教員による別形式（オムニバス）の授業となる。

1) 予習記録用紙・グループの作り方・役割の決め方に関する3回の改善

2010（平成22）年度

- 各章、冒頭のケーススタディをどう考えるか？基本的な問題点の整理と、具体的な対処方法について、事例を考えるにはヒントを読みながら考察し、テキストに直接記入をする。この方法は、学生には便利だが教師は確認しにくい。学生の中からも予習してこない学生とのグループワークは、しにくいと苦情が出る。
- 名簿の座席表順に5、6人のグループ。1年間同じグループ。3号館の教室は。机椅子がスクール用に並べられ、移動できない机に向きあって座る準備に時間を要する。
- 司会・記録・発表者は、自主的な挙手によって決める。ジャンケン、くじ引きや、人に押し付

「乳児保育」の授業研究 I

けることは厳禁。主体性を持って自ら立候補する。「今日、司会をしたい人は誰ですか?」「今日、司会をしてくれる人は誰かな?」「司会したい人、手を上げて!」と言った呼びかけから挙手を問う。毎回違う学生がすることとして前回した人はしないルール。記録者は自分のノートにまとめたものを板書・発表する。役割の回数は年度末に自己申告。

2011 (平成23) 年度 前期

○教室が2号館の221教室と、222教室となり演習用机があり環境的に恵まれる。

○「予習&グループ学習用紙」作成。意識調査の自由記述に「予習&グループ学習用紙」に関する改善への提案が3点あった。①予習部分の記入欄が少ない。②授業後の記入時間が短く丁寧に記入できない。④用紙提出回数が多く時間やルールに追われる。

○「グループ名簿と学習の仕方」を示した用紙作成。クラスによりグループのメンバー変更の希望があり、そのクラスは変更。

○「グループ用記録用紙」を作成。司会・記録・発表者の決め方は前年度同様。記録者は「グループ用記録用紙」にメンバーの学籍番号、氏名、グループ討議の内容を記録する。記録者は、グループの記録にある程度時間を要する。発表者は、「グループ用記録用紙」を読み上げる。教員の教授内容も前年度同様。

2011 (平成23) 年度 後期

○「予習&グループ学習用紙」を学生の意識調査から3点改善する。①予習部分の記入欄を増やし、裏面にグループ討議の内容を記録する。「予習&グループ学習用紙」にメンバーの名前や役割を書くようにしたことから記録者の負担は軽減された。②④授業後記入するためのノートを作成し提出は後日とする。ノートはバインダー式。

○後期から担当教師が2名になり、オムニバス形式の授業とした。グループづくりが独自に前期同様の形式を用いる教師と、毎回ランダムに作ることから始める教師に分かれた。

○グループ討議の学生の役割分担は、記録と発表は同一の学生がすることとし、司会者と2名で進める。「予習&グループ学習用紙」の改善により可能。

5. 考 察

「乳児保育」の授業が学生にとって有益 [興味を持って自ら演じ、考える習慣を身に付ける] であるためには、人的環境である教師自身が新しいことや難しいそうだが面白そうと感じたことを、ある時には勇気を持って学生に伝えることも1つの方法と考える。2011 (平成23) 年度後期、前期同様の進め方をする教員と、3回目の改善にあたって授業開始直後から全く違った方法でスタートする教師の授業を考える。特に後者は、グループづくりの言葉を考えるところから始め、ある日は、「は な そ う よ」であったり「ほ い く を ね」また「た の し げ に」など一人ひとりが、次の学生の顔を見つめて大きな声で呼びかけることから同じ字の仲

間がグループを組むことになる。グループワークではよく用いる方法であるが、前期授業の組み立てが非常に細やかに親切であったことから、学生には戸惑いが見える。予習範囲も2ページ程ずつ決められていたため、そのみを予習してくる学生もいる。後者は、それとは反対に、1章全部を要約し考察したことを1ページにまとめるよう求めている。「まとめ方がわからない」と、研究室をしきりと訪れる学生もいるが、根気よく指導することによる結果を期待する。

表1-1章「脳科学の視点」のグループ討議中心授業における意識調査から、学生は非日常的な不思議な世界をのぞき、胎児期からの生命の神秘を感じると感想を書く。「難しい」が乳児保育を学ぶ上で「ためになる」とここで意識するのであろう。「用語説明」「補足」を大きい声で何度も読む学生は、難しい言葉をおもしろがっているようにも見えるが彼なりの追及態度とも見える。

表2-No.3「封筒人形」の制作のように、「楽しいが、ためになることは少ない」と学生が意識している内容との比較をするとき、本研究の目的である演習授業の価値と問題点が明確に浮き彫りされたといえよう。なお、3回目の改善策は、2つの違った授業形態への挑戦である。教育の成果は50年後、100年後に表れるとも言われているが、学生が近い将来、保育者として賢くも逞しく活躍することを目標に今後の効果的な授業のあり方を追求する。

6. お わ り に

本研究のテーマを「乳児保育」の授業研究としたことから、保育者養成の視点から考察をすすめてきたが、「大学とは職業教育の場ではない」と、一般教養教育の重要性を説くJ.S. ミルは、セント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演において大学教育について述べたことが著書になっている。その中で、「知性溢れた靴職人にするのは教育であって、靴の製造法の伝達ではないのです。言い換えますと、教育によって与えられる知的訓練とそれによって刻み込まれた思考習慣とによってであります。」³⁾

「乳児保育」を担当する私たち二人は、保育所勤務が長い保育士であったことから、ややもすると、靴の製造法の伝達者になってはいないだろうか。自戒の念を込めて今後も授業研究を続けていきたい。

参考・引用文献

- 1) 監修 川原佐公, 編著 古橋紗人子「赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力」—保育所・家庭で役立つ—. 保育出版社, 2010
- 2) 月刊『保育とカリキュラム』5月号: ひかりのくに, 2011
- 3) J.S. ミル著, 竹内一誠訳: 「大学教育について」. 岩波書店, P. 14, 2011

「乳児保育」の授業研究 I

「乳児保育 I」第 1 回 授業計画

テキスト『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力』

時間	授業の展開	ポイント	備考
9:00	始業の挨拶 教師自己紹介	全員起立して静かになってから始める。 非常勤の教員の実践力、現場経験を強調	90分の予定を説明。 メモを取るよう指導
9:10	「心技一如」と「すみれ がーでん」	専門知識・技術の習得を通して人間性を高め る。実学教育の理念の重要性を学ぶ 「保育実習」とは違う、子どもや保護者との 体験の場の意味を考える。	「すみれがーでん」の今 年の特徴「コーナー遊 び」中心。「集いの広場」
9:20	テキストと、『保育月刊 誌』の使い方の説明。 前期・後期授業の予定	授業の進め方の説明をする。 予習の重要性を具体的に伝える。発表・確認 『保育とカリキュラム』の使い方の実際。	教科書への書き込み方。 発表の順番・確認方法。 『保育とカリキュラム』
9:30	第 1 章の導入 「ケーススタディー」を 読む	第 1 章のコピーにざっと目を通し 次回からは予習してくる内容と予告し、勉強 の仕方を具体的に示す。グループづくり。 絵本「まいごになったぞう」を、グループご とに配布して目を通すよう伝える。	申込書を配布する。 <u>教科書のコピー配布</u>
9:40	教師、絵本を読む		約 6 人のグループの <u>名簿</u> 配布。絵本配本。 「8 行考察レポート」 配布する。
9:45	学生が順番に読む グループ討議	絵本のあらすじを伝えるために読む。中抜け有。 学生の読む順番は、グループで違い OK。 討議の結果を教科書の事例研究欄に書き込む。	学生が興味を持ったら途 中とはばしてもよい。 グループ討議の説明 (司会・記録・発表)
10:05	講義	<ul style="list-style-type: none"> 小象の気持ちと声のトーンについて 人間の気持ちは、どう読み取るか? ケータイメールやタイマー表示との違い 赤ちゃんを育てるポイントはなにか? 	本日は相談、記述可。 グループ用紙、省略。
10:15	次回の予告		次回からは、予習して 「ケーススタディー」は
10:20	「考察レポート」記入	第 1 章グループの課題を調べて記述してくる。 記入状況により、挨拶は個々でするもよし。	熟読・記入の上、受講。 グループの <u>課題提示した</u> 用紙配布。
10:30	授業終了の挨拶		「有難うございました」 教師から挨拶をする。

古橋 紗人子, 安井 恵子

乳児保育 I 予習&グループ学習資料 2011年 月 日

2回生 クラス 学籍番号 氏名 ()

予習する内容 () 章 () 節 () 項 ページ数 (~)
テーマ及び小見出し
1. 内容の要約
2. 考察 (新たな発見や理解したこと)
3. 質問事項 (疑問に思ったり, わからないこと)
4. グループ討議から学んだこと (授業当日の記入内容)
5. 授業を受けての考察・感想

「乳児保育」の授業研究Ⅰ

「乳児保育Ⅱ」予習&グループ学習用紙

_____月 _____日 ()

学籍番号 _____ 氏 名 _____

予習する内容 () 章 () 節 () 項 ページ (~)

テーマ及び，小見出し _____

今日の
グループの
仲間の名前

グループの名前は？ _____

• _____ さん・ _____ さん・ _____ さん

• _____ さん・ _____ さん・ _____ さん

司会・記録
と発表者の
名前も記入
しよう。

★予習 内容の要約	_____

★予習 内容からの考察	_____

★質問事項	_____

グループ名簿と学習の仕方

乳児保育 I Aクラス 1章「赤ちゃんからのシグナル」(1回目)

グループ名	学 籍 番 号	課 題
ほ	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	I. 胎児期の脳の発達 (P.16~17)
い	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	2. 胎動の分類 (P.18)
く	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	3. 神経ダーウイニズム, シナプスの過形成と刈り込みそして髄鞘化 (P.19)
た	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	I. 赤ちゃんはなぜかわいい 2. 愛着形成は赤ちゃんから (P.20~21)
の	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	3. 表情と模倣 3節1. 赤ちゃんの五感の発達 2. 移り変わる感覚の首座 (P.21~23)
し	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	3. 「見せる」「聴かせる」「触る」から「見たい」「聴きたい」「触りたい」へ 4節. 赤ちゃんにとっての「早期教育」と「敏感期」(P.22~25)

●グループで話し合うことで、他の人の考えを聴きあい、学びを深めましょう。

※司会者、記録者、発表者を決める。みんなが経験できるように順番に回る。

※予習：①事前にケーススタディの事例をよく読み、「考えるときのヒント」及び専門用語を調べて、教科書の決められた欄に書いてくること。

- ②「予習&グループ学習資料」は授業1週間前に提出。
(相手に読みやすい字。空白を作らず全部記入すること)



当日、資料に基づき話し合いをし、記録する。(感想も記入)



- ③「予習&グループ学習用紙」を提出する。(評価される)
④討議に楽しく参加するために、必ず決められた課題を読んで、まとめてくること。

具体的には、全員が1章を読む→グループに割り当てられた文章の内容をノートにまとめる。意味がわからない言葉を出す→次回にグループで話し合う。

※復習：授業後のノートを整理しておく。